

事故防止のポイント



7 赤ちゃんは暖房器具（ストーブ、こたつなど）の熱が直接ふれないように寝かせていますか。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。体温より少し高いくらいの温度でも、長時間あてたままにすると低温やけどをおこすことがあります。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重傷な熱傷になる危険があります。



赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらないようにして寝かせる。こたつや電気カーペットに長時間寝かさない。

9 赤ちゃんを抱いて自動車に乗ることがありますか。

生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、赤ちゃんは腕から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり走っていても衝撃のエレルギーは予想以上に大きく、大人の手力では支えきれません。



車に乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

11 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか。

おむつを取り替えたり、授乳をしたりでお母さんは睡眠不足です。赤ちゃんと一緒に風呂に入ってたた寝をしてしまい、赤ちゃんが湯船に沈んでしまったり、うつぶせにして体を洗っていたら、お湯に顔がついて溺れてしまうなどの事故が起きています。

入浴中の赤ちゃんから目を離さない。入浴中の赤ちゃんを一人にして着替えを取りに行ったり、電話に出たりしない。

8 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちてこないようになっていますか。

赤ちゃんの上に、テーブルの上の哺乳ビンが倒れてきたり、タンスの上の箱が落ちてきたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいるおもちゃが落ちてきたり。上から落ちてきた物が赤ちゃんにあたり、外傷や打撲を負ってしまう事故があります。

寝ている赤ちゃんの上には、物が落ちてこないようにする。

10 赤ちゃんを抱いているとき、ドアを勢いよく閉めることがありますか。

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまう。ドアのすき間に指が入っているのを知らずに勢いよく閉めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって指が挟まれてしまう事故があります。

ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認する。

12 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、寝かせていますか。

母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でないと授乳をもどしてしまい、口の中に吐物が残っていると窒息事故につながります。吐いたものがのどや気管につまらないように寝かせ、寝かせてから10分～15分位は気を付けて見ているようにしましょう。

母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ寝かせる。口の中に吐物がないか確認をする。

13 敷布団は硬めの物を使用していますか。

敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまう、鼻や口がふさがれてしまいます。掛布団やタオルなどが顔に深くかかっているか、寝ている周でも時々様子を見るようにしましょう。



敷布団は硬めの物を使用し、おお向けに寝かせる。掛布団は顔に深くかけすぎない。顔のそばにタオルやガーゼは置いておかない。